

お知らせ: 次回発信日は3月21日週報(予定)

Jミルクが2025年1月31日に公表した「需給見通し(※2024年12月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・1月の生乳需給実績について、生乳生産量は、前年同期比+1.9%と6カ月連続で上回った。地域別に見ると北海道では+3.9%と6カ月連続で前年超えとなり、前月より上昇幅が拡大したが、都府県は▲0.8%と7カ月連続で前年割れとなった。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が8月下旬から2月下旬まで前年水準を上回っている。一方、都府県は6月中旬から2月下旬まで前年割れが続いているものの、減少率は縮小傾向で推移。このため、全国の受託乳量は9月下旬以降、前年水準を上回っている。

・1月の牛乳の生産量は、乳価改定から昨年8月で一巡した影響もあり+0.3%と5カ月連続で前年水準を上回った。一方、成分調整牛乳や乳飲料は低調でいずれも前年割れ。はっ酵乳は、春ごろから回復基調が続いており、1月は+12.5%と今年度最高の伸び率を示した。このため、生乳の飲用等向処理量は+0.6%と4カ月連続で前年水準を上回っている。

・脱脂粉乳の1月の生産量は+6.2%と5カ月連続で前年水準越え。推定出回り量は+4.6%と7カ月ぶりに前年水準を上回ったものの、単月での脱脂粉乳需給は供給量が需要量を上回り、月末在庫量は52.9千ト( +0.9%)と2カ月連続で5万ト台となった。脱脂粉乳の在庫量が前年水準を上回るのは2カ月連続。バターの推定出回り量は、国家貿易の追加輸入などの影響で堅調に推移していたが、追加輸入の売渡が年内でほぼ完了したことなどにより、1月は▲15.0%となった。生産量は+7.2%で、在庫量は25.7千ト(+13.3%)と、5カ月連続で前年水準を上回った。

・牛乳類の2月の販売動向は、4品目すべて前年水準を下回った。寒波や大雪の影響で購買機会が減少した影響などで家庭内消費が押し下げられたと推察される。直近(3/3週)の販売動向は、牛乳が2週ぶりに前年水準を下回り、牛乳類全体も2週ぶりに前年割れとなった。

・はっ酵乳は、11月ごろから全品目で好調が続いていたが1月中旬をピークに上昇幅は縮小し、3/3週には3品目計の販売個数が18週ぶりに前年水準を下回った。3/3週の内訳を見ると、大容量タイプは前年水準を上回っているものの、個食タイプとドリンクタイプは前年水準を下回った。スギ花粉の飛散が各地でピークを迎える中、花粉症対策としてはっ酵乳の消費が後押しされるかが注目される。

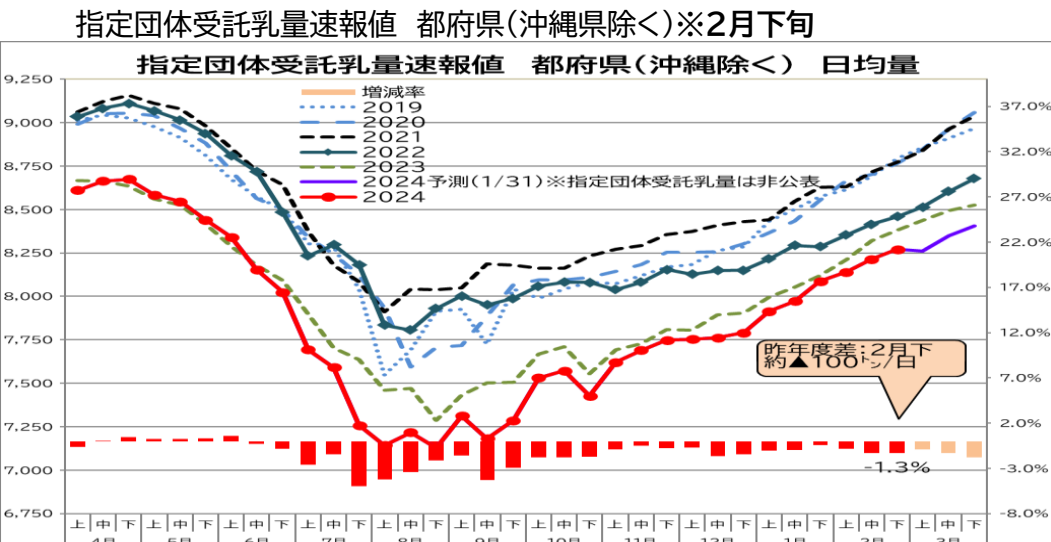
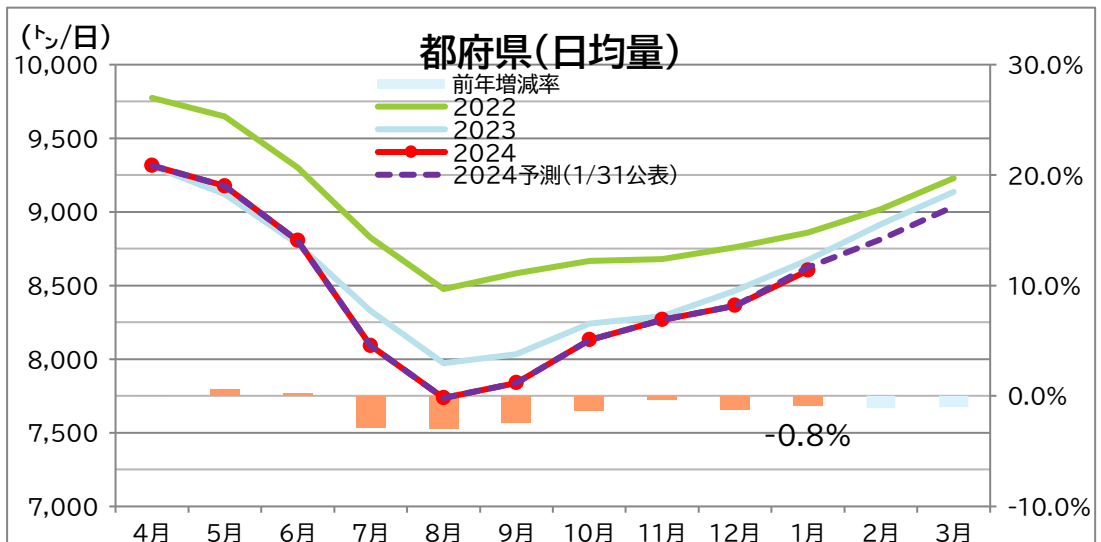
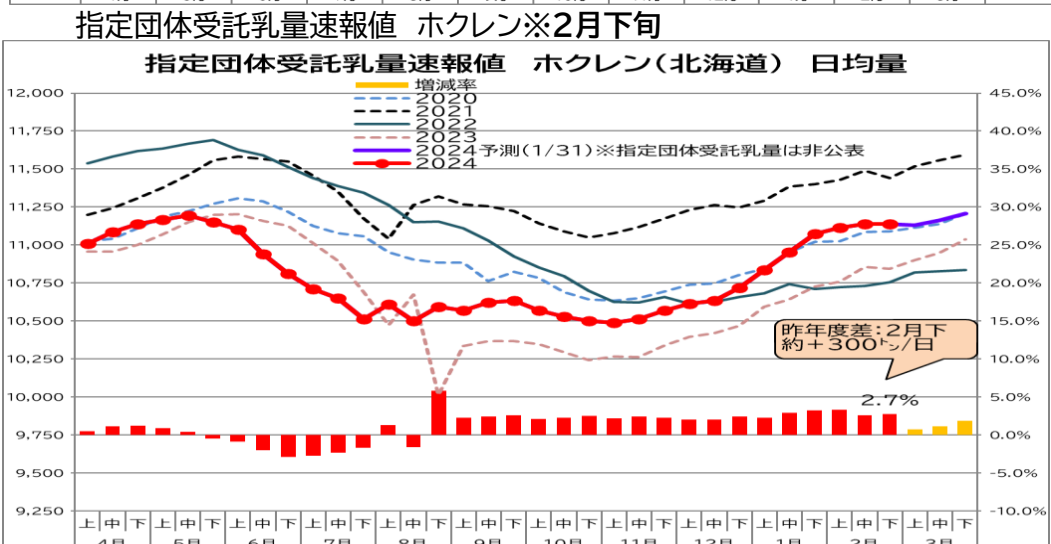
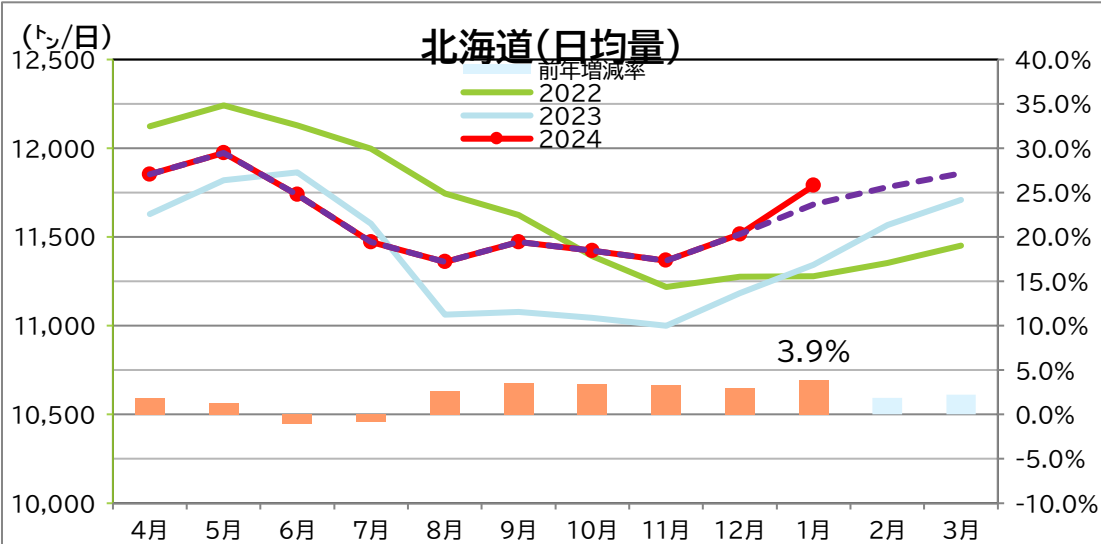
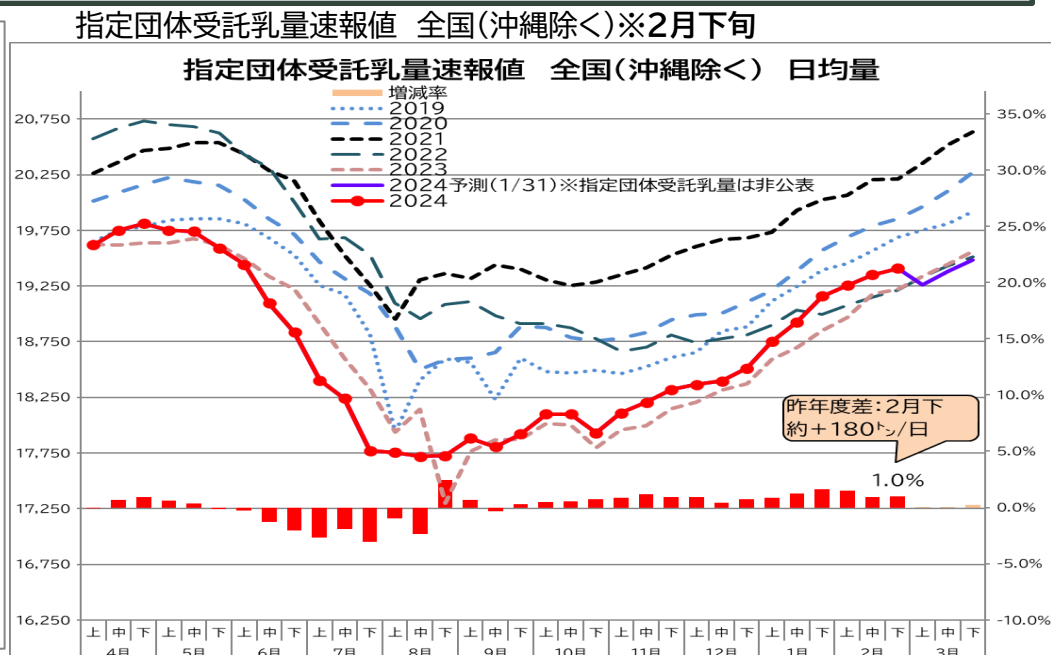
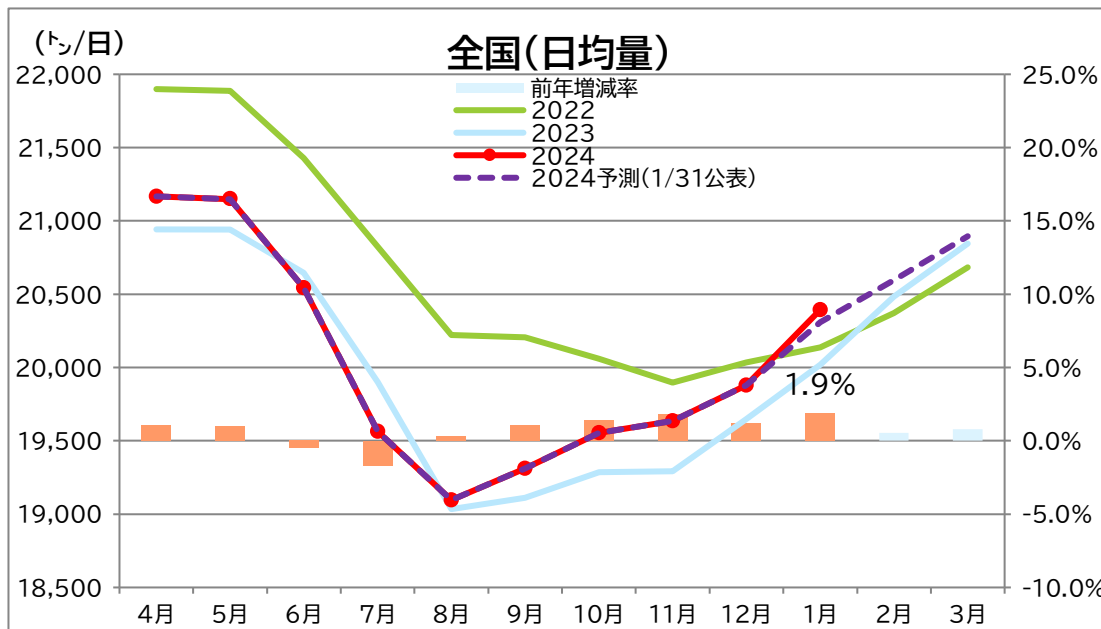
・家庭用バターは、2/10週に販売単価が今年度最高水準まで上昇していたが、2/17週から2週連続で下落、3/3週は再び上昇した。価格が上下する中で販売個数は2週ぶりに前年水準を下回った。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)1月の生乳生産量は、全国632.2千ト(前年同月比101.9%)、北海道365.5千ト(同103.9%)、都府県266.7千ト(同99.2%)。

(2)1月に公表したJミルク予測値(全国629.5千ト、北海道362.2千ト、都府県267.4千ト)との比較は北海道と全国が上振れした一方、都府県はやや下振れとなった。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が2月中旬(最新、以下同)で同101.0%、都府県(沖縄除く)が同98.7%、北海道は同102.7%となった。

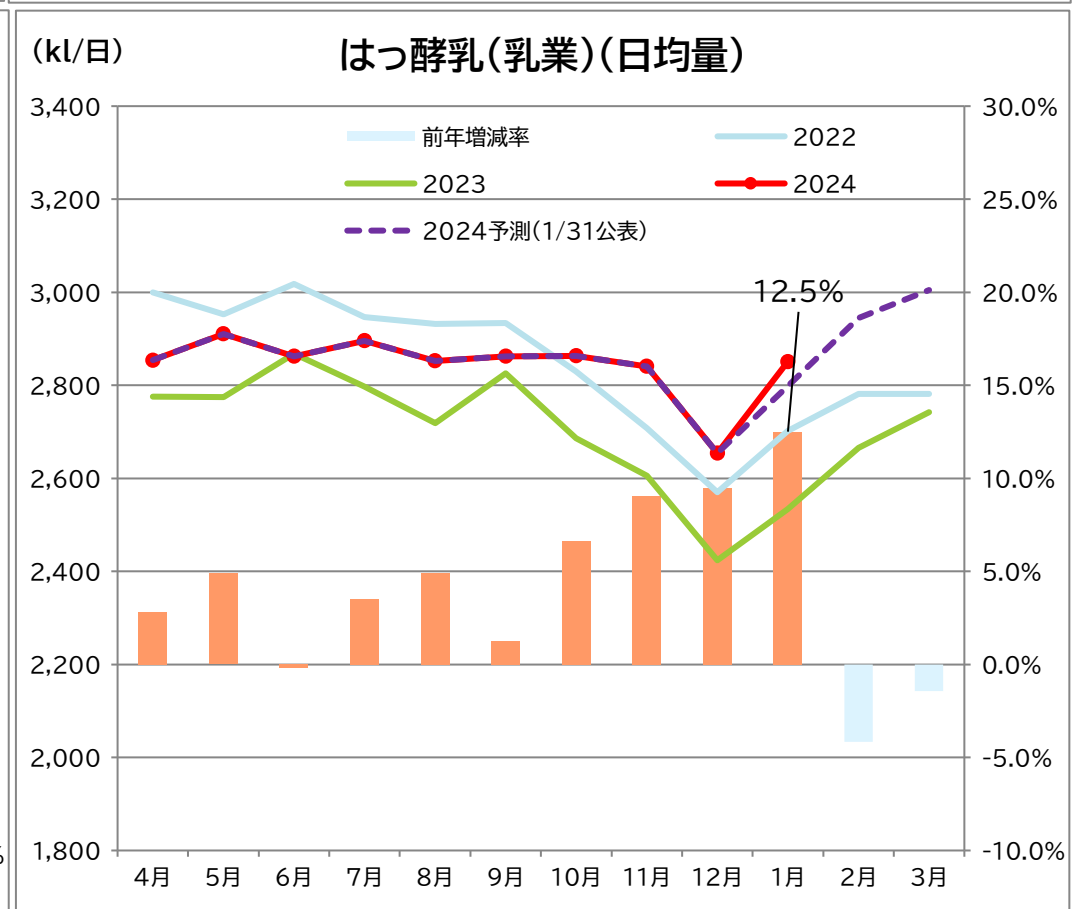
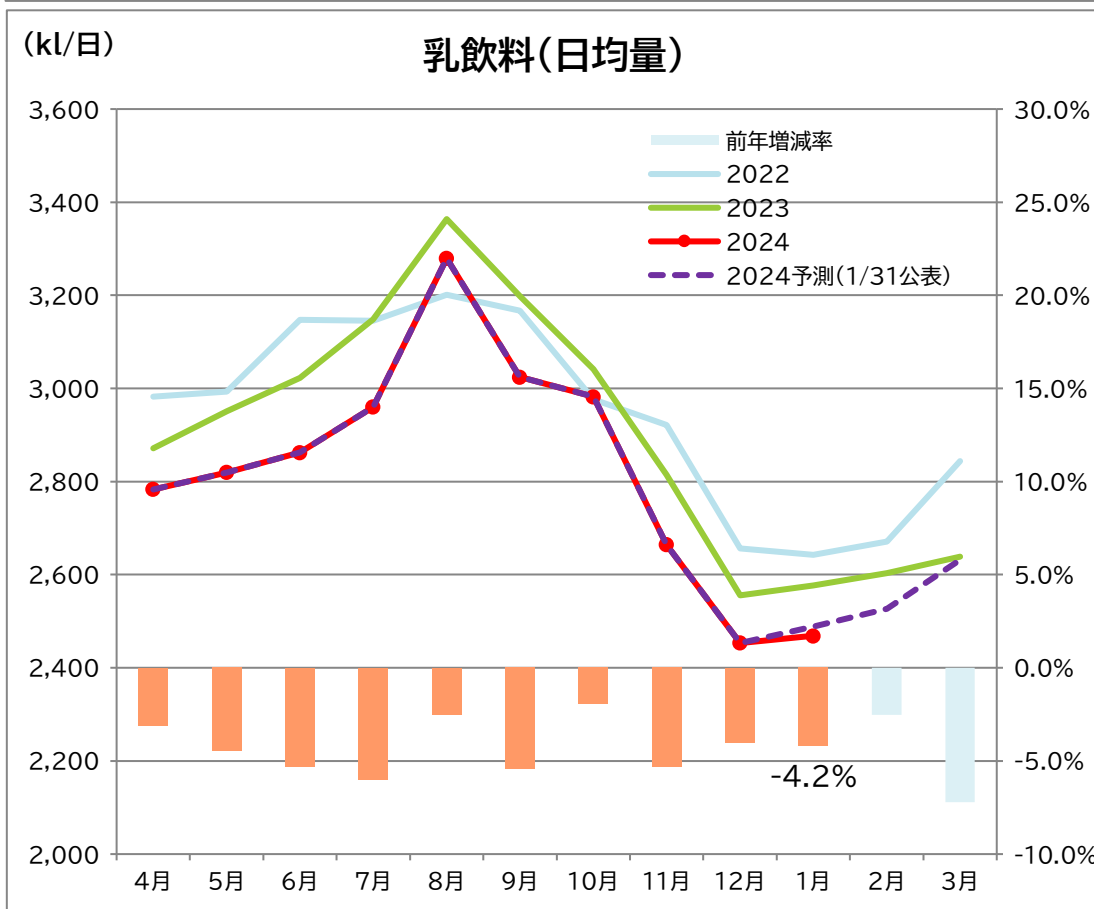
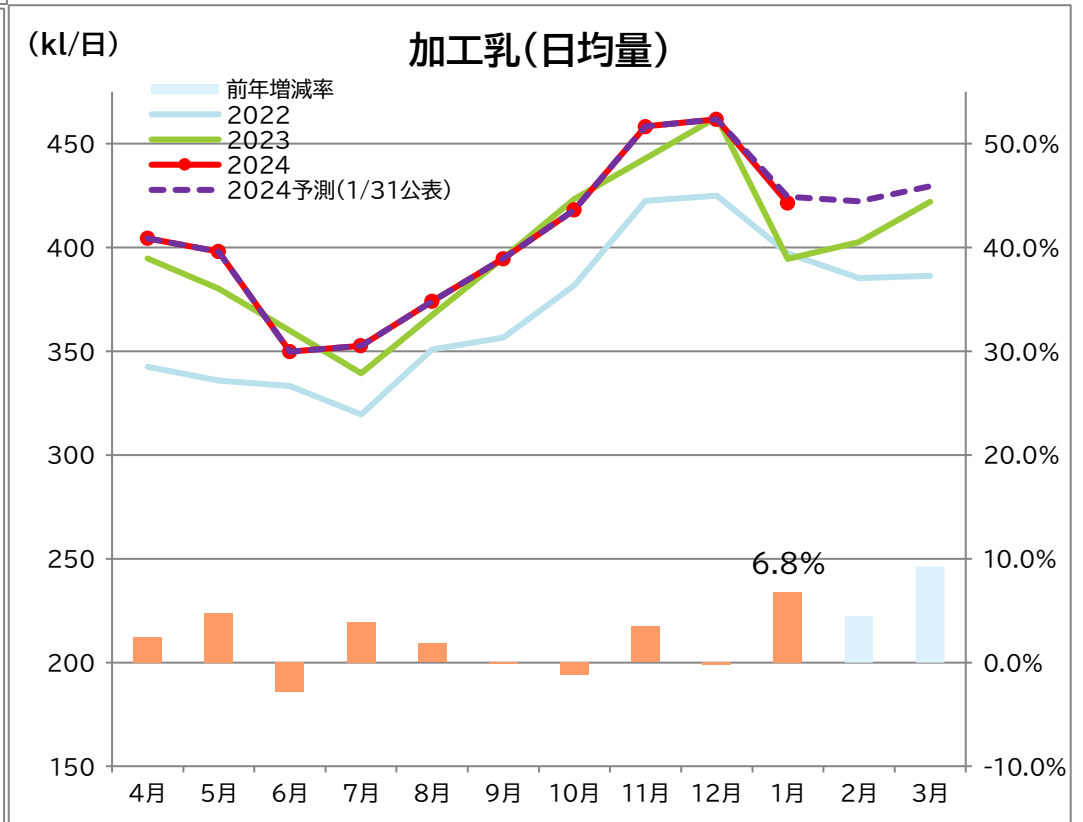
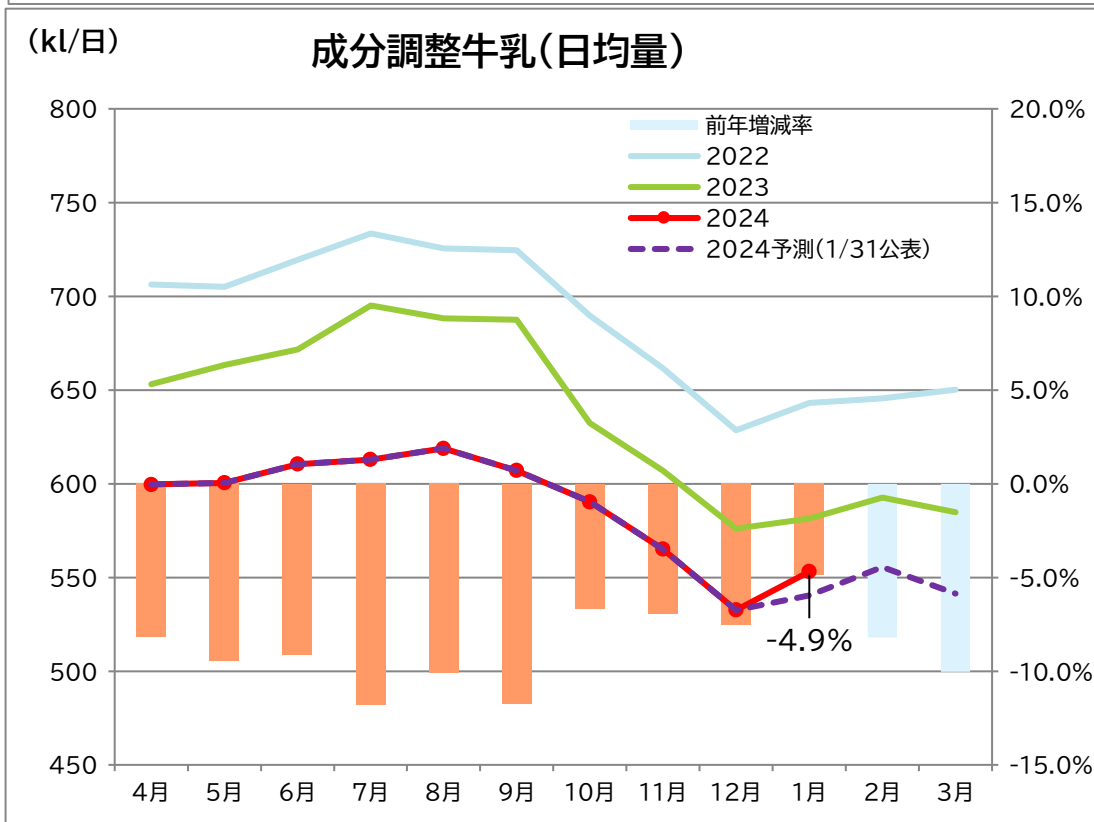
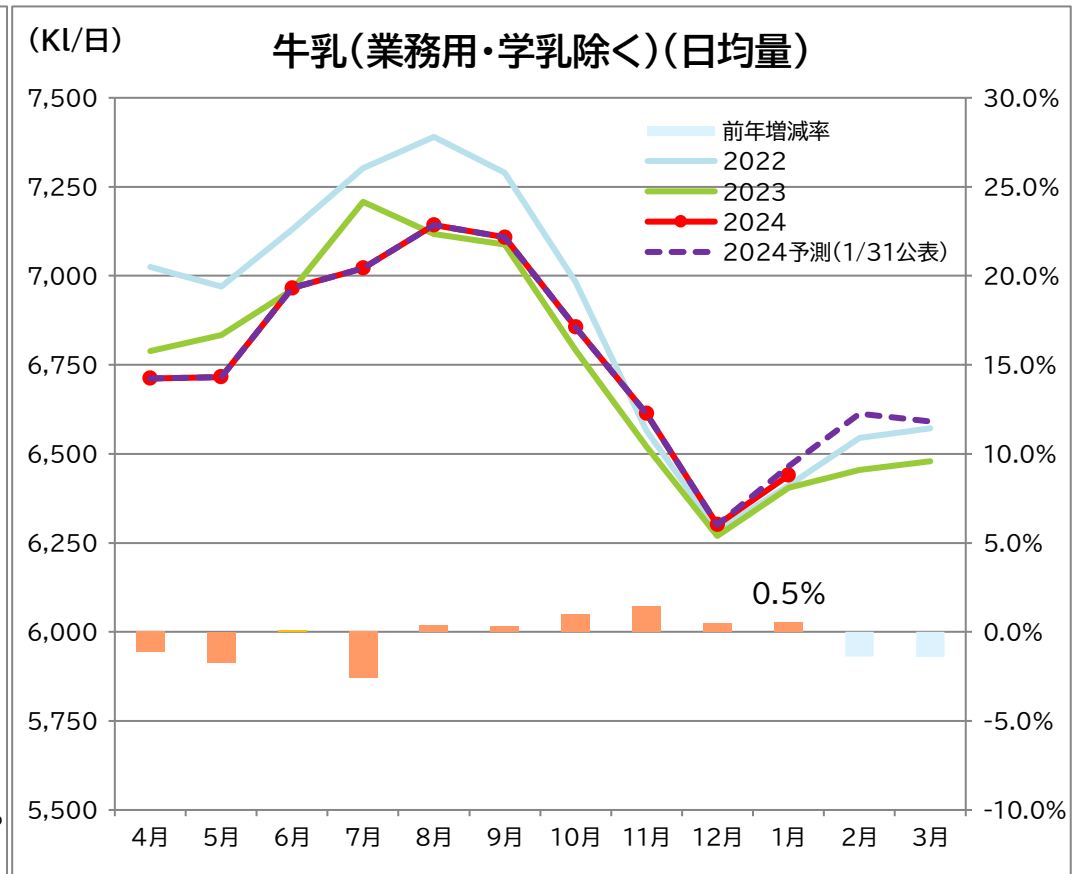
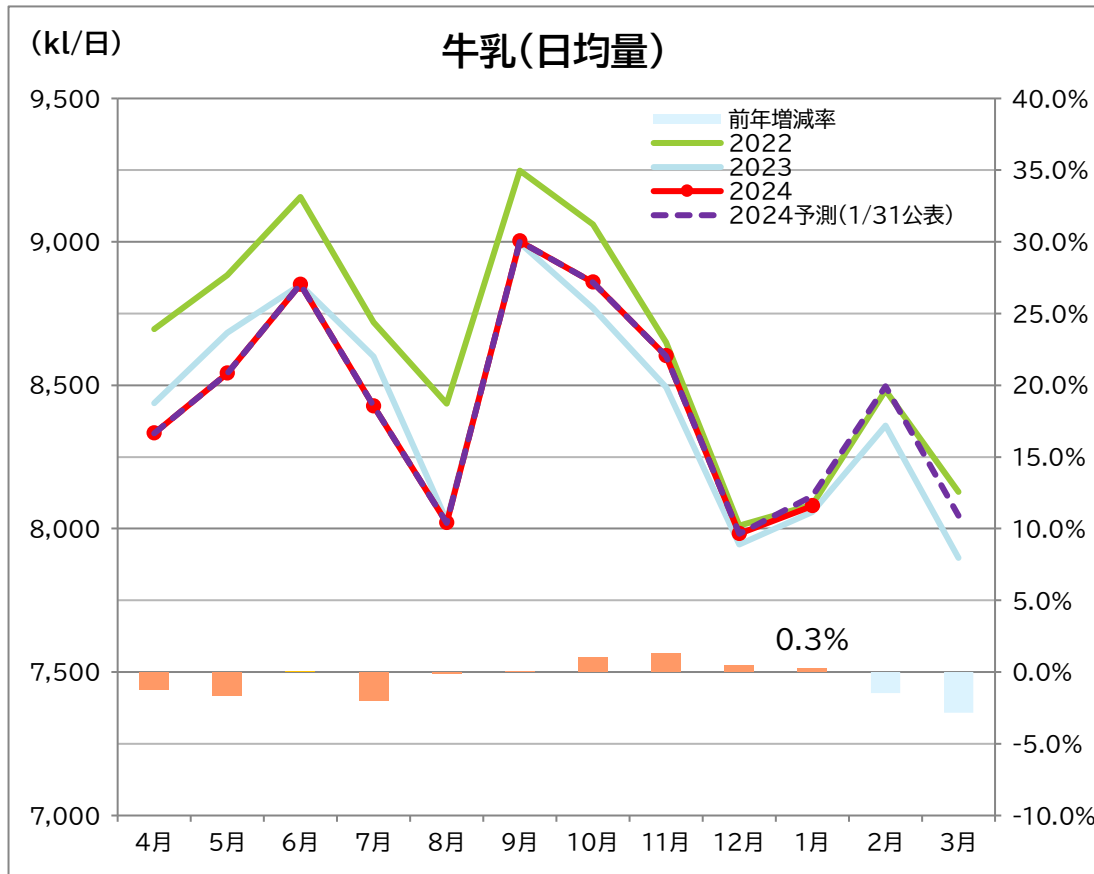


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)1月の牛乳等生産量は、牛乳250.5千kl(前年同月比100.3%)、成分調整牛乳17.1千kl(同95.1%)、加工乳13.1千kl(同106.8%)、乳飲料76.5千kl(同95.8%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、357.2千kl(同99.2%)となり、26カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.5%、「業務用」は同99.2%、「学乳」は99.2%。

(3)はっ酵乳(乳業)は88.4千kl(同112.5%)と7カ月連続で前年を上回った。はっ酵乳(非乳業:12月実績)は99.7%となった。



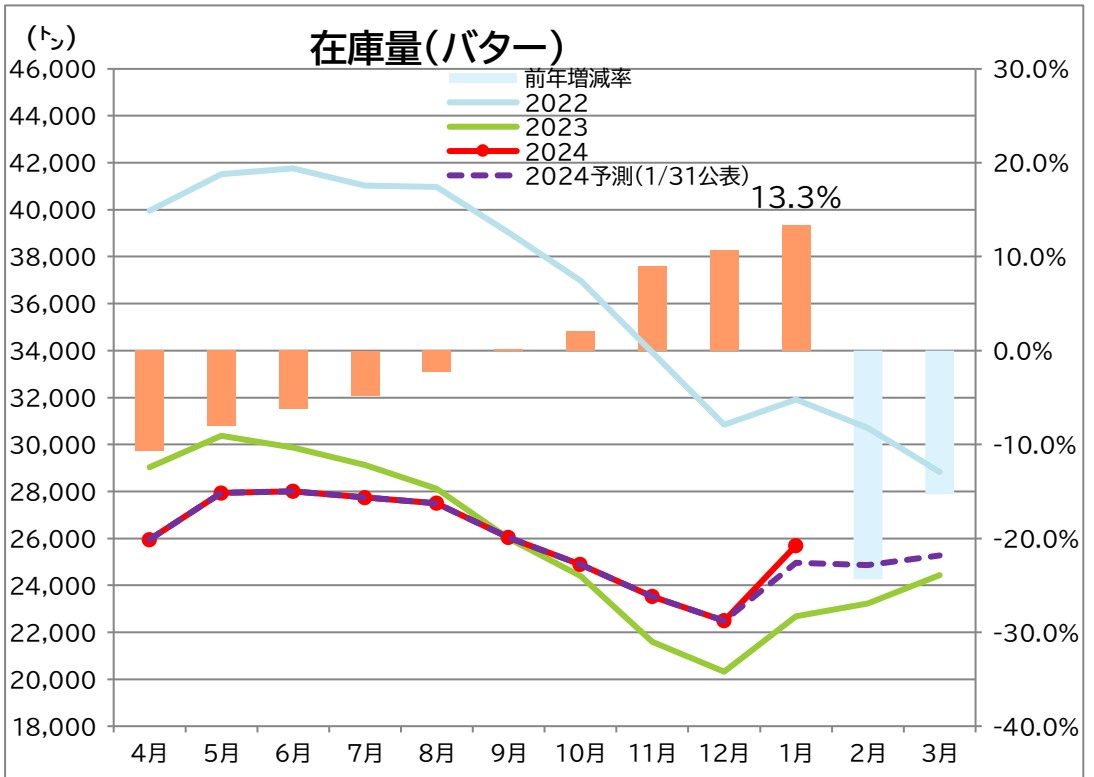
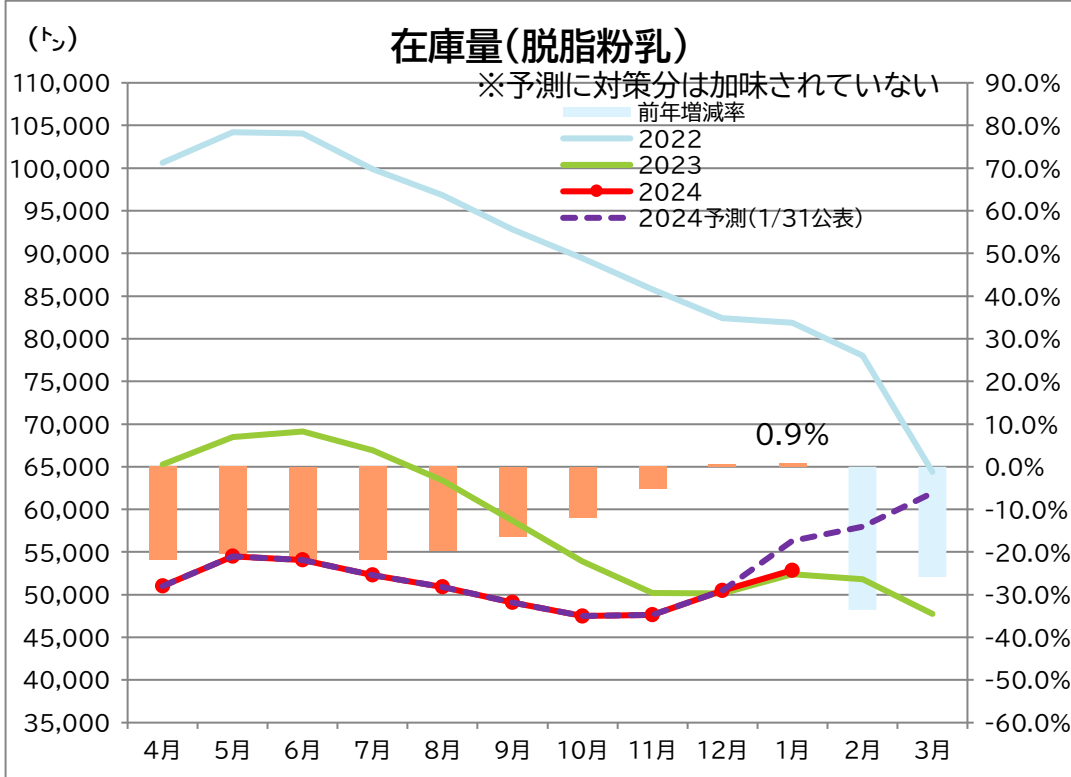
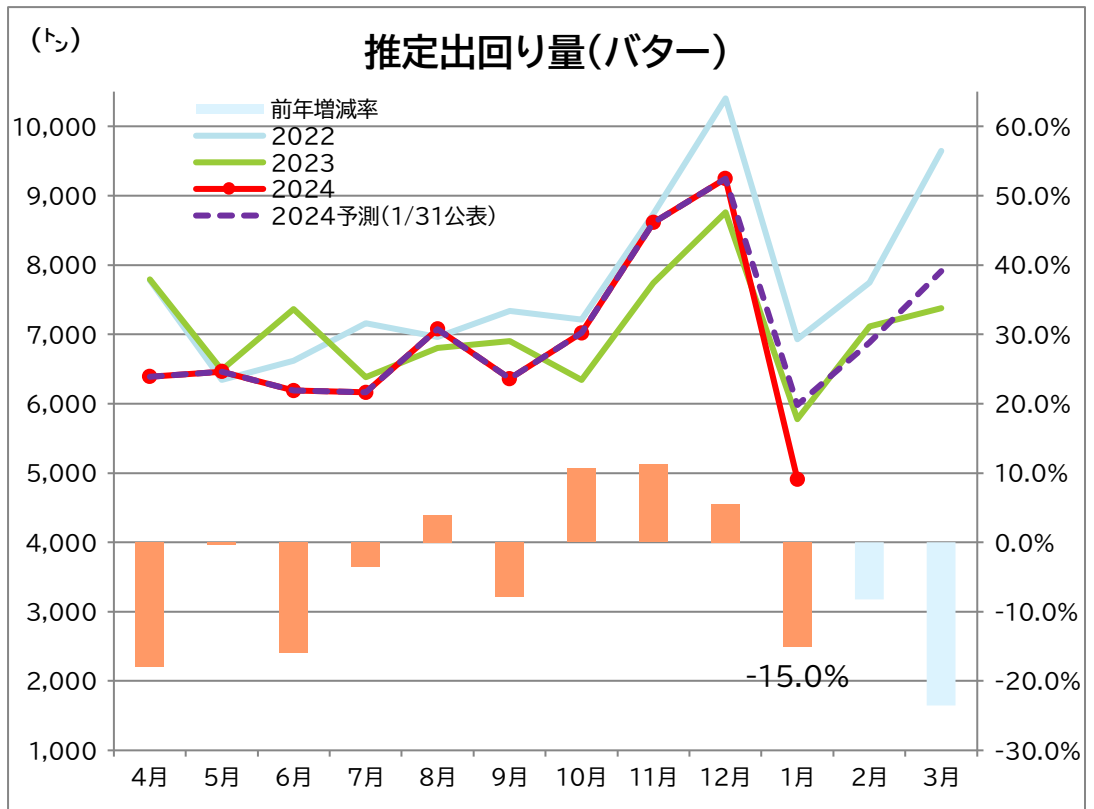
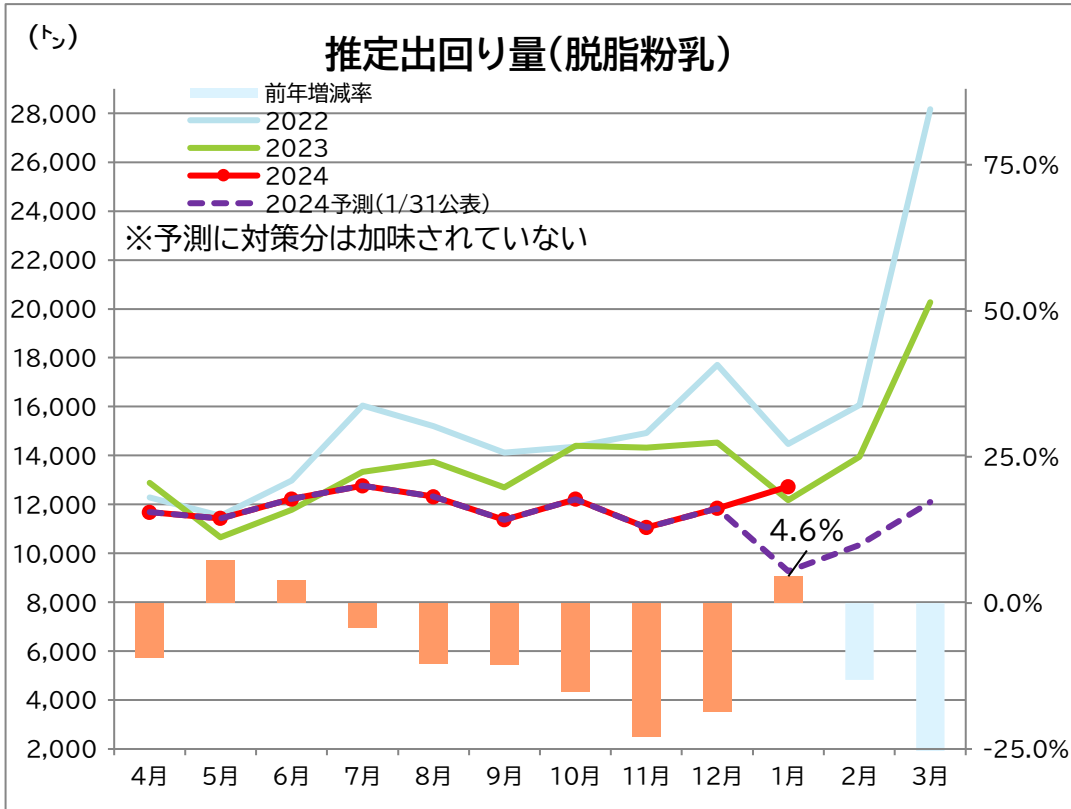
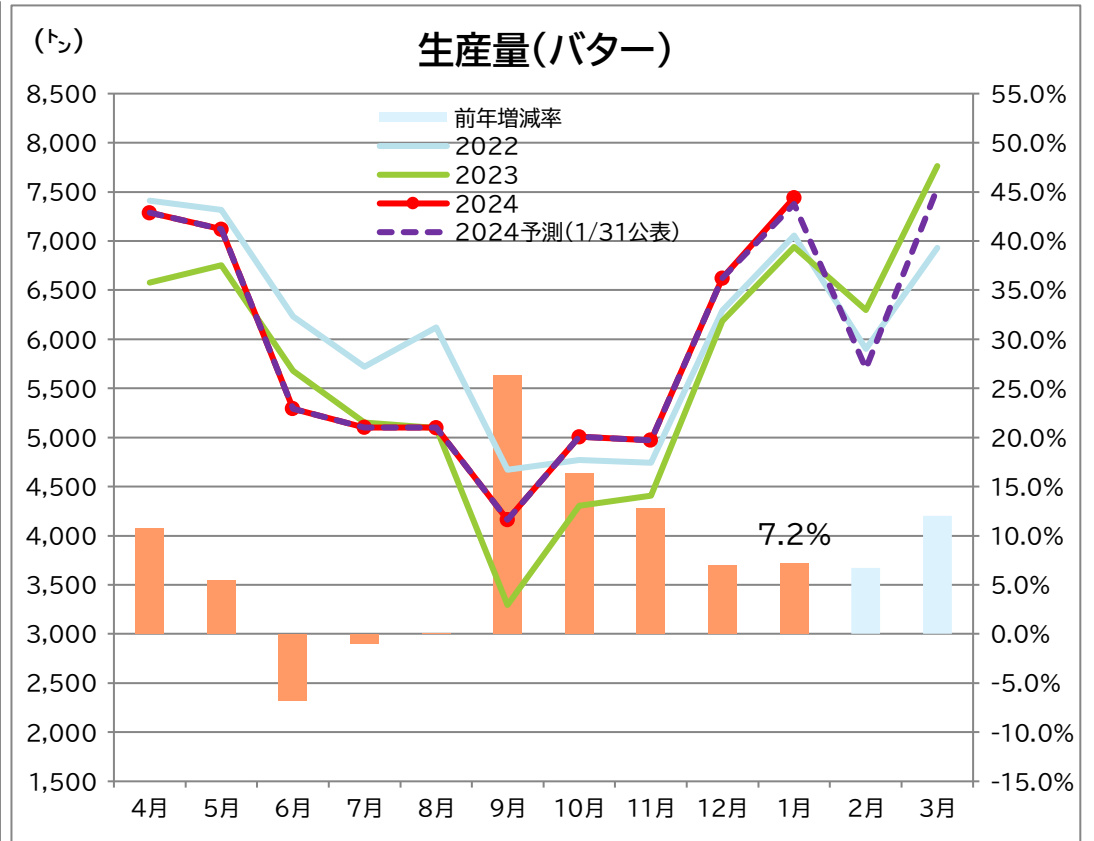
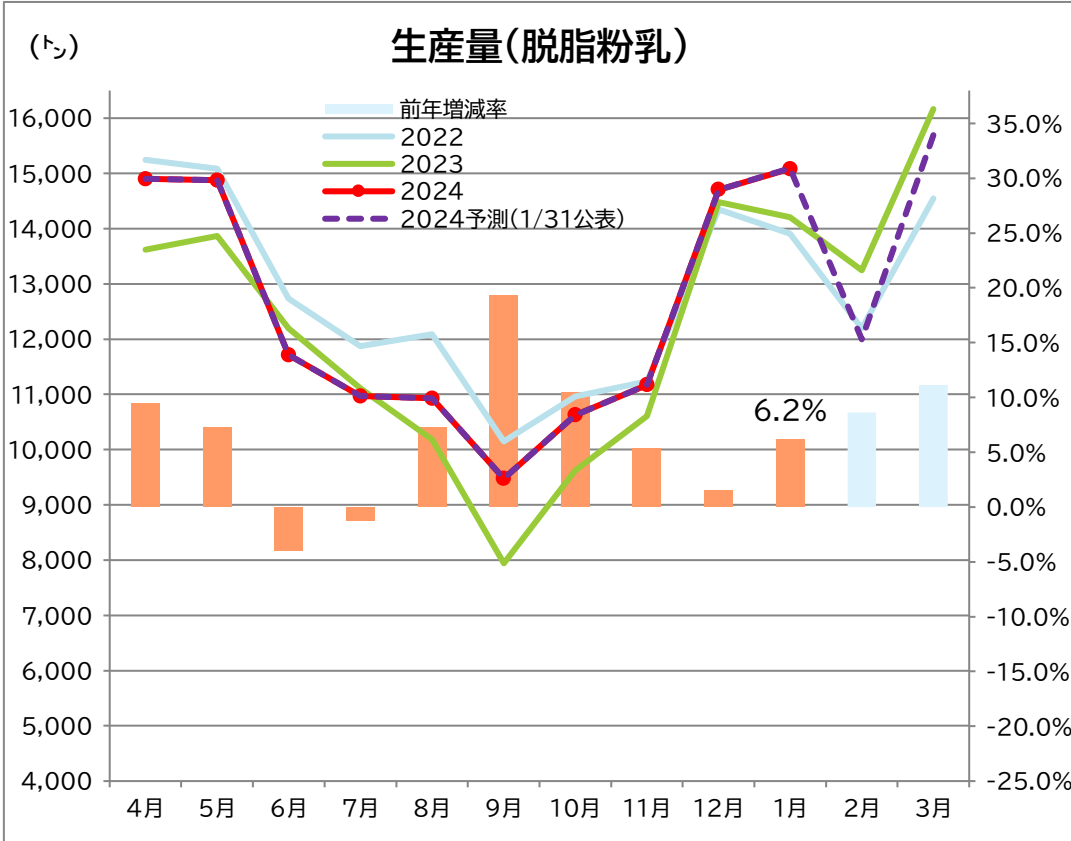


## 【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳について、1月の生産量は15.1千ト(前年同月106.2%)、推定出回り量は12.7千ト(同104.6%)となった。出回り量が生産量を下回ったため、在庫量は前月から2.4千ト程度増加し、52.9千ト(同100.9%)となった。在庫量は12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、1月も2カ月連続で前年水準を超えた。  
 ※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、1月の生産量は7.4千ト(同107.2%)、推定出回り量は4.9千ト(同85.0%)となった。バターの生産量が前年同期比を上回るのは6カ月連続。一方、出回り量は4カ月ぶりに前年水準を下回った。国家貿易による輸入売渡分(約0.7千ト)も考慮すると在庫量は前月から約3.2千ト減少し25.7千ト(同113.3%)となった。在庫量は5カ月連続で前年を超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)2月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比96.8%、成分調整牛乳:同93.4%、加工乳:同95.8%、乳飲料:同91.4%。牛乳類全体:同95.7%

【参考】2023年2月比…牛乳:97.4%、成分調整牛乳:81.3%、加工乳:98.8%、乳飲料:92.4%(牛乳類トータル:95.5%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(3/3)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.1%、成分調整牛乳:同94.3%、加工乳:同98.8%、乳飲料:同92.4%。牛乳類トータルでは同97.0%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

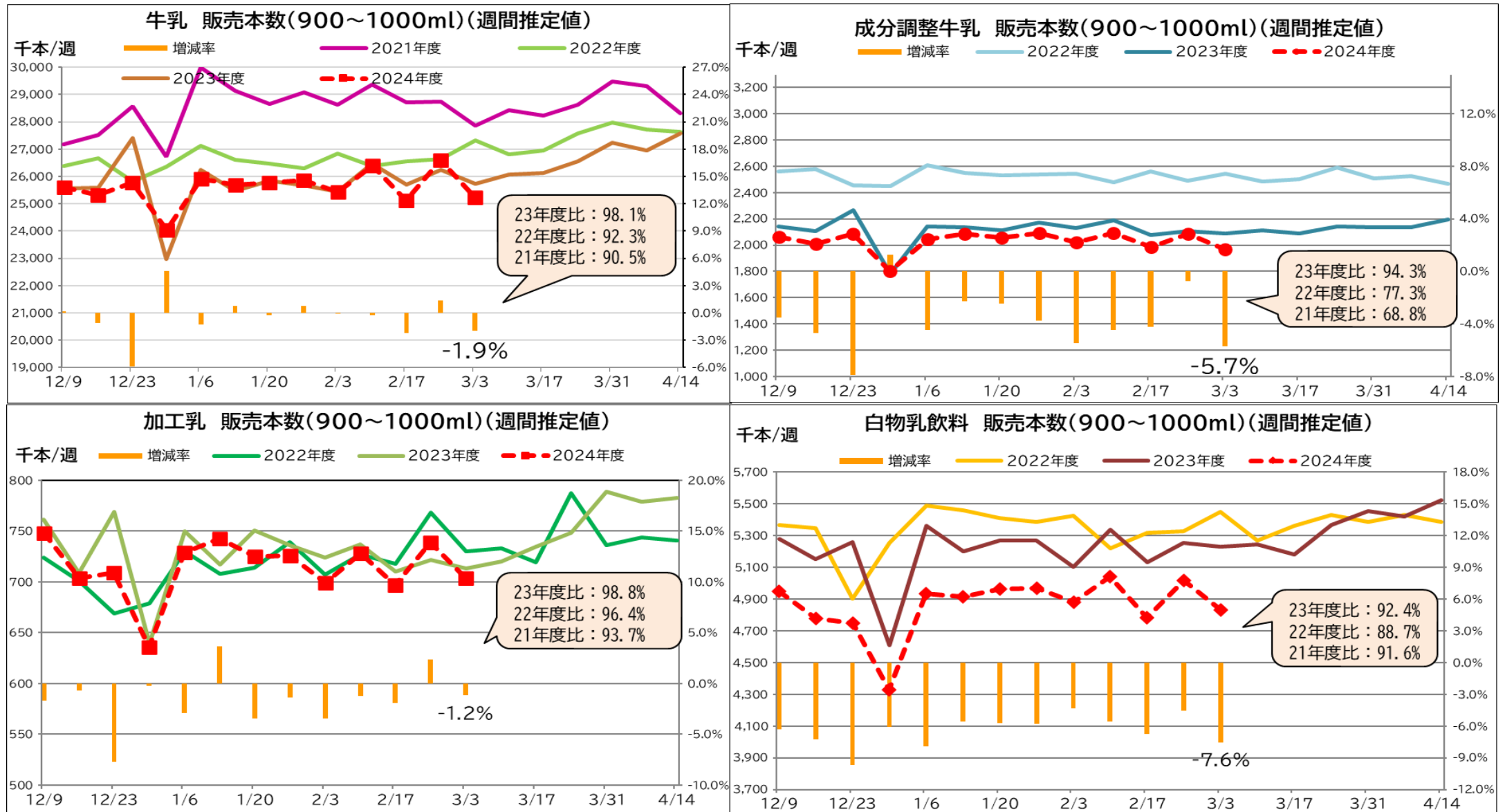
単位:千個、円

品目	区分	2024/9-	2024/10-	2024/11-	2024/12-	2025/1-	2025/2-	2025/2- 2022/10価格差	2025/2- 2023/3価格差	2025/2- 2023/7価格差
		販売個数	165,980	161,140	147,094	149,786	142,418	134,275		
トータル	販売個数前年比	97.6	98.6	98.9	98.3	97.6	95.7	32.8	17.7	15.9
	販売単価	216.1	216.0	215.8	216.3	216.3	215.9			
牛乳	販売個数	127,378	123,650	112,767	115,582	109,654	103,489			
	販売個数前年比	99.3	100.3	100.5	99.6	98.8	96.8	34.7	18.4	17.6
成分調整牛乳	販売個数	9,883	9,938	9,065	9,170	8,702	8,211			
	販売個数前年比	90.6	95.4	96.0	95.5	96.0	93.4	31.9	16.2	12.7
加工乳	販売個数	3,646	3,568	3,311	3,280	3,094	2,867			
	販売個数前年比	101.5	97.7	100.4	98.4	97.4	95.8	28.9	19.2	8.2
乳飲料	販売個数	25,073	23,984	21,951	21,754	20,968	19,708			
	販売個数前年比	92.0	91.8	92.2	92.8	92.7	91.4	23.4	12.8	9.1
	販売単価	172.8	173.0	172.7	173.4	172.6	172.9			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	1.13-	1.20-	1.27-	2.3-	2.10-	2.17-	2.24-	3.3-	25.3.3- 22.10.24 価格差	25.3.3- 23.3.20 価格差	25.3.3- 23.7.24 価格差
		販売個数	33,425	33,528	33,647	33,019	34,254	32,589	34,446	32,731		
トータル	販売個数前年比	99.7	98.7	99.4	98.8	98.6	96.9	100.4	97.0	32.7	17.8	15.4
	販売単価	216.1	215.7	215.8	216.1	215.9	216.1	215.4	215.9			
牛乳	販売個数	25,678	25,780	25,865	25,421	26,393	25,119	26,606	25,227			
	販売個数前年比	100.8	99.8	100.8	99.9	99.7	97.7	101.4	98.1	34.5	18.2	17.0
成分調整牛乳	販売個数	2,088	2,057	2,090	2,018	2,090	1,988	2,086	1,967			
	販売個数前年比	97.7	97.5	96.2	94.6	95.5	95.8	99.2	94.3	32.7	17.8	13.2
加工乳	販売個数	743	725	726	699	728	697	739	704			
	販売個数前年比	103.6	96.5	98.6	96.5	98.8	98.1	102.4	98.8	27.9	17.6	7.0
乳飲料	販売個数	4,917	4,966	4,967	4,882	5,042	4,785	5,015	4,833			
	販売個数前年比	94.5	94.3	94.2	95.7	94.4	93.2	95.5	92.4	23.6	13.8	9.1
	販売単価	172.3	172.4	172.8	173.0	172.8	173.2	172.9	173.3			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(3/3週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回る推移となっている。(3品目合計前年同期比90%以上)。

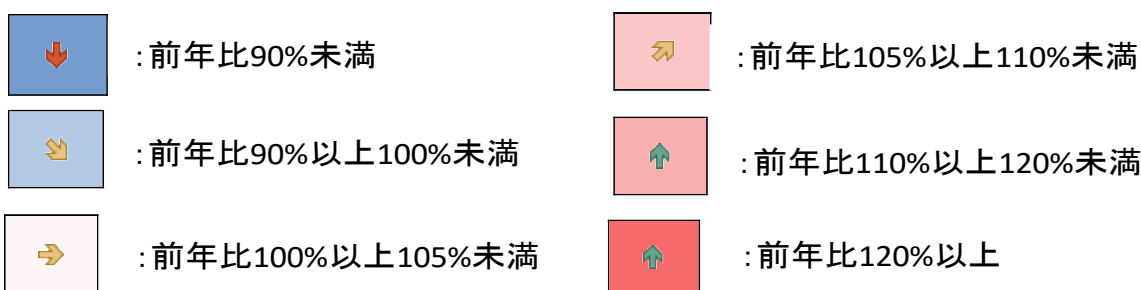
(2)販売個数について、前週(2/24週)との比較では、3品目いずれも減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	1.13-	1.20-	1.27-	2.3-	2.10-	2.17-	2.24-	3.3-
ドリンクタイプ	↑	↑	↗	→	→	→	→	↘
個食タイプ	→	↗	→	→	→	→	→	↘
大容量タイプ	↗	↑	↑	↗	↗	↗	↑	→



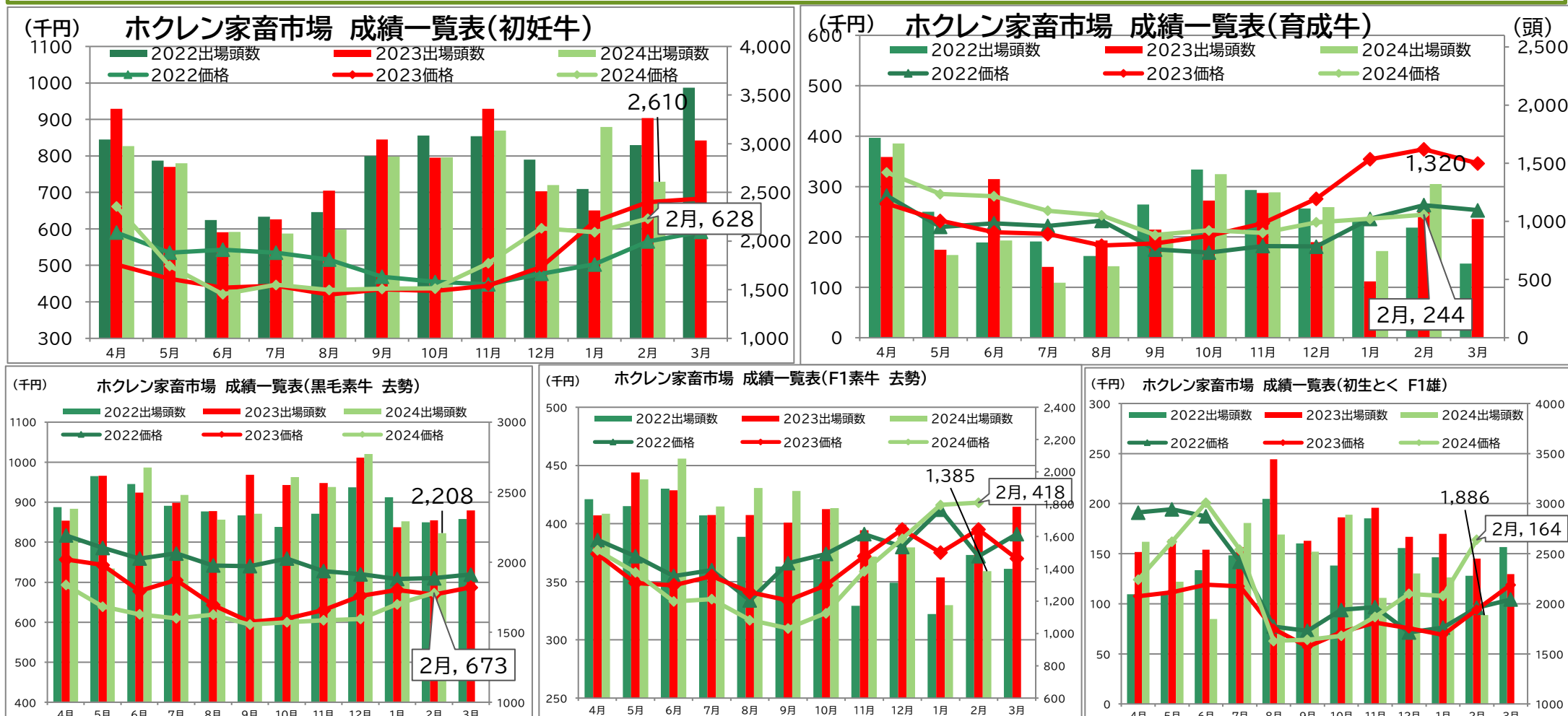
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

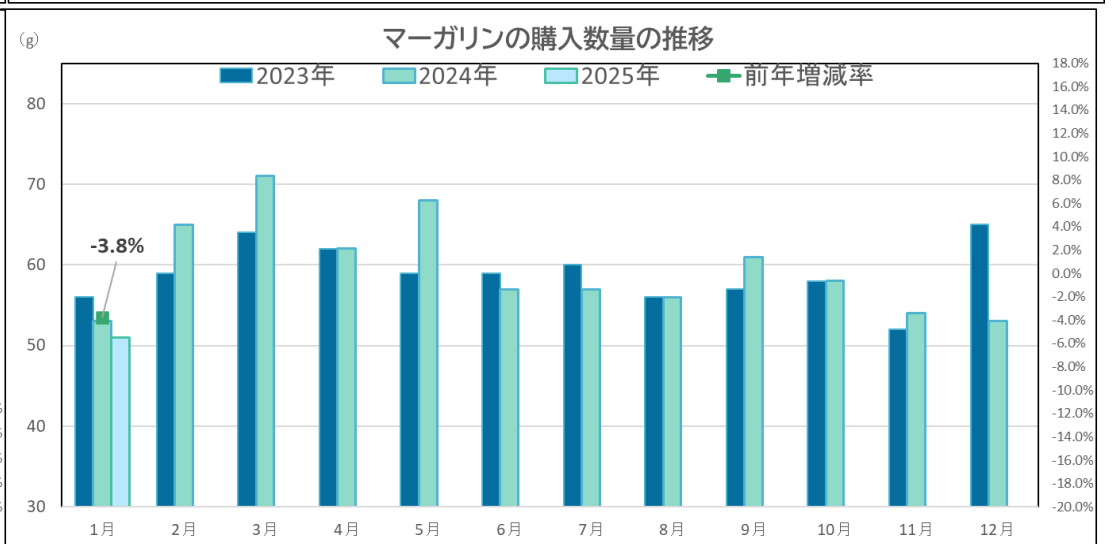
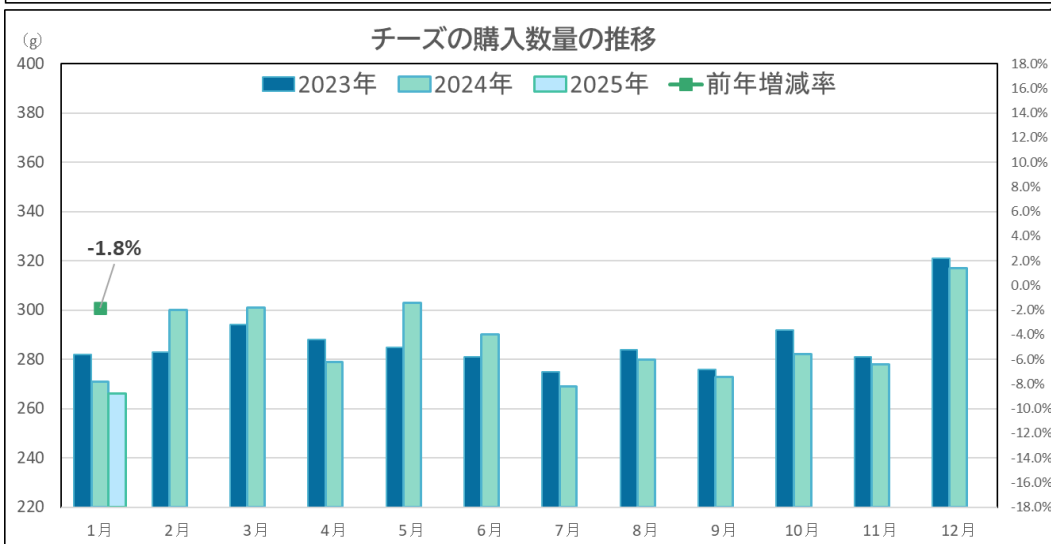
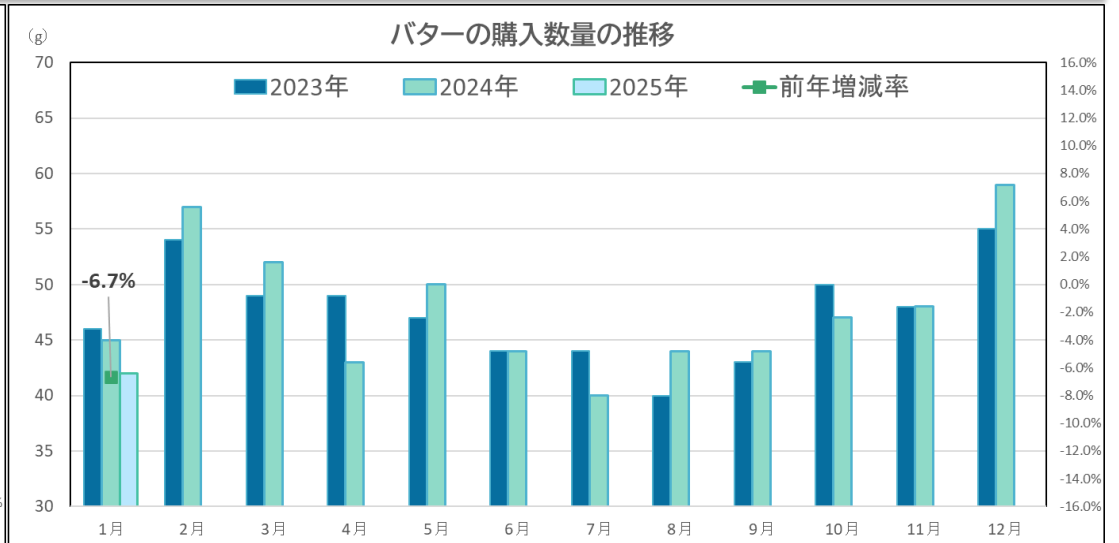
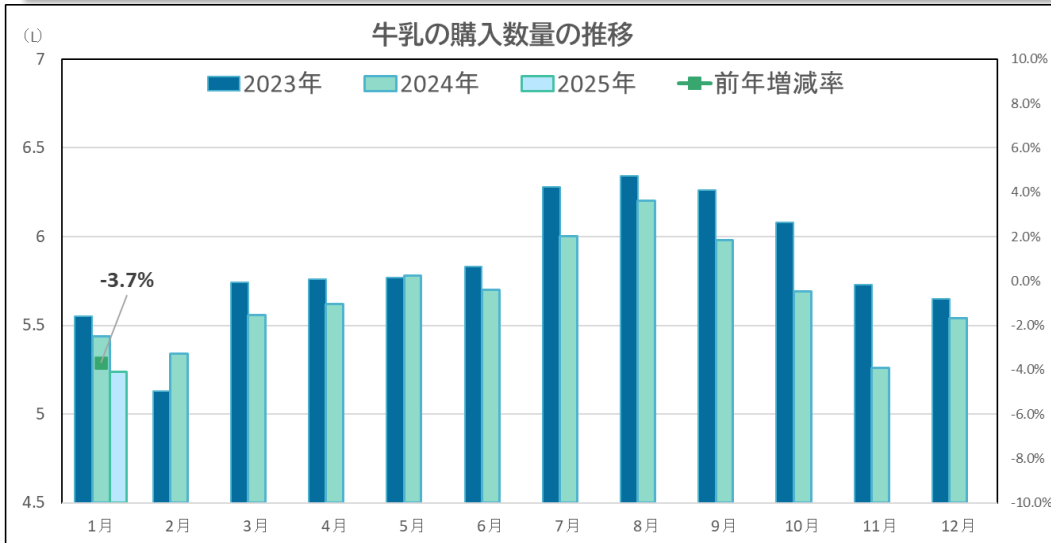
(1)2月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は628千円(前年同期比93.3%)、育成牛価格は244千円(同65.2%)、和牛素牛(去勢)価格673千円(同100.6%)、F1素牛(去勢)価格は418千円(同105.8%)。初妊牛は2カ月ぶりに60万円以上に上昇、育成牛は10カ月連続で20万円台となった。ホル初生(雄)価格は40千円(同97.6%)と、7か月ぶりに40千円を上回った(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同80.0%、育成牛:同117.3%、F1初生(雄):同77.0%、和牛素牛(去勢):同96.0%、F1素牛(去勢):同85.3%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)





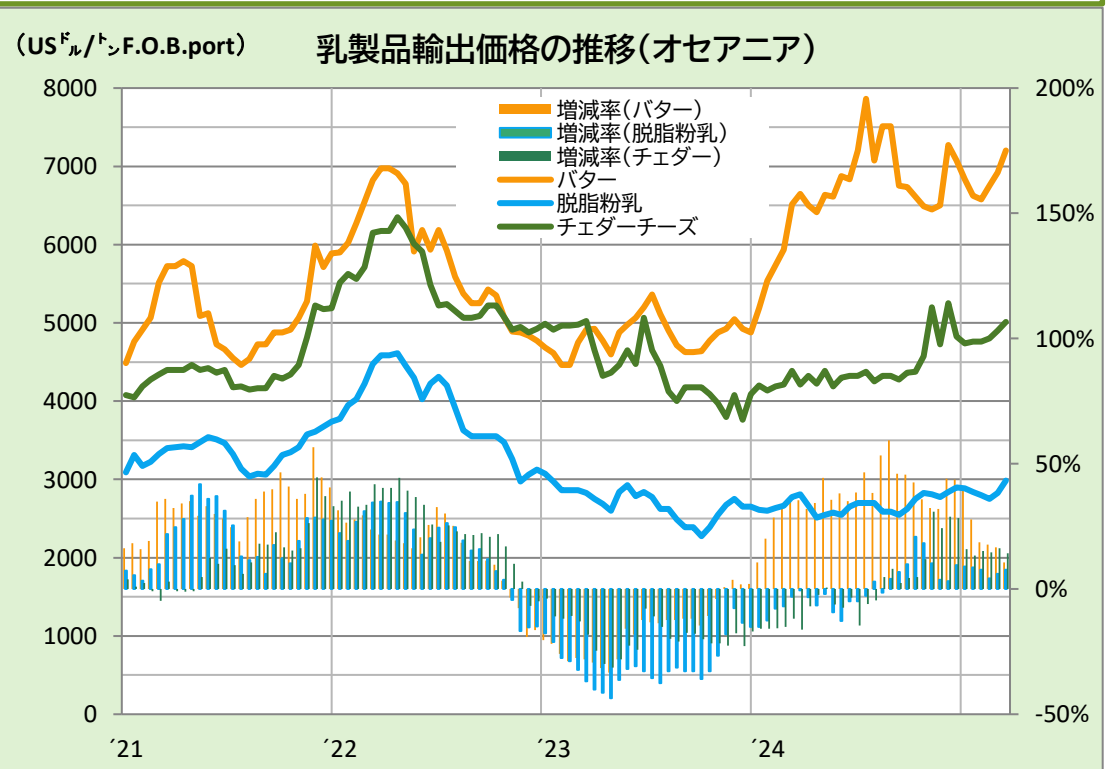
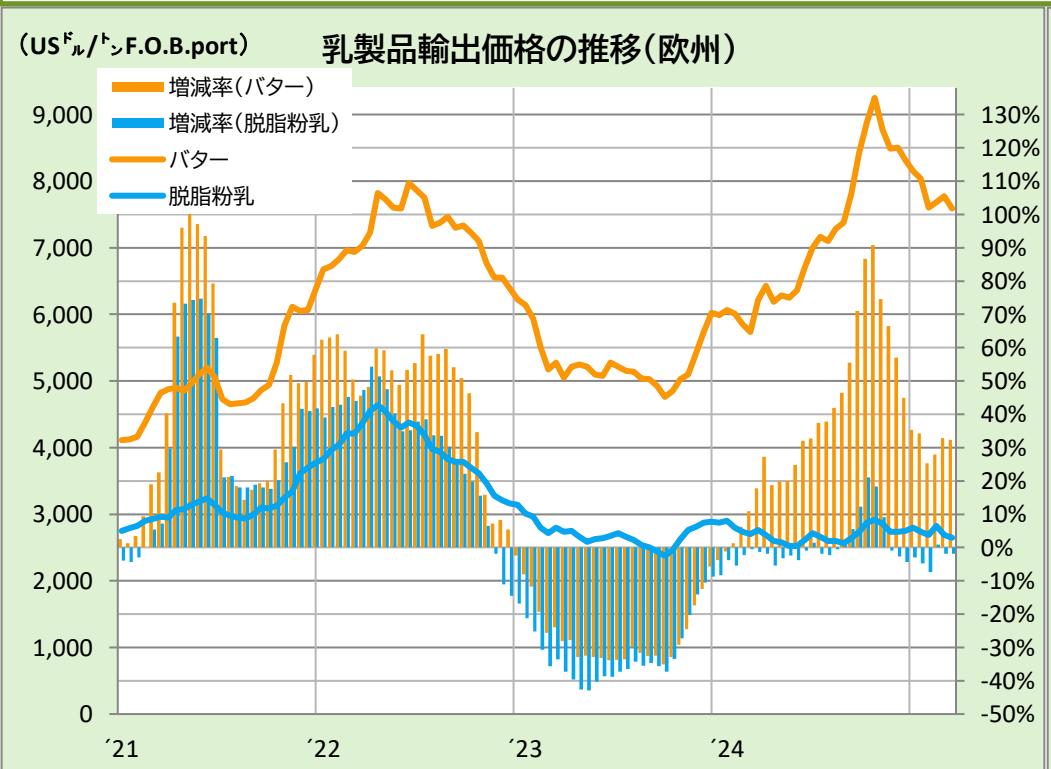


### 【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(2月中旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,650ドル/ト、バター7,587ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,987ドル/ト、バター7,200ドル/ト、チェダーチーズは5,012ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」